

Fujitsu Network SH-E
SH-E514TR1 取扱説明書



はじめに

このたびは、SH-E514TR1（以降、本装置と記載）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本装置の取り扱いの基本的なことについて説明しています。

2016年 1月 初 版

2023年 5月 第2 版

本書には「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれています。
従って本書を輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。
Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。
Copyright Fujitsu Limited 2016-2023

目次

はじめに	2
本書の構成と使いかた	5
本書の取り扱いについて	5
本書の読者と前提知識	5
本書の構成	5
本書で使用するマークについて	5
本書における商標の表記について	5
安全上のご注意	6
警告表示について	6
メンテナンスに関するご注意	9
使用上のご注意	9
ツイストペアケーブルの除電について	9
清掃について	9
電波障害自主規制について	9
高調波電流規格について	9
ハイセイフティについて	10
事業系の使用済み製品の引き取りとリサイクルについて	10
ラック搭載およびテーブルタップへの接続時のご注意	10
グリーン製品について	11
ネットワークの機器管理・監視	11
お取り扱い上の注意事項	11
第 1 章 お使いになる前に.....	12
1.1 梱包内容／各部の名称と働き	13
1.1.1 梱包内容	13
1.1.2 本装置 前面	14
1.1.3 本装置 背面	15
1.1.4 本装置 上面	15
1.1.5 本装置 底面	16
第 2 章 機器の設置	17
2.1 設置環境を確認する	18
2.1.1 設置条件を確認する	18
2.1.2 設置（保守）スペースを確認する	20
2.2 設置する	22
2.2.1 本装置を設置する	22
2.3 接続する	25
2.3.1 ツイストペアケーブルを放電する	25
2.3.2 SFP+ モジュール光コネクタを清掃する	25
2.3.3 ツイストペアケーブル／ SFP+ モジュールを接続する	27
2.3.4 ケーブルホルダの取り付け／取り外し方法	30
2.3.5 電源を投入／切断する	32

第 3 章	設定	33
3.1	WWW ブラウザを準備する	34
3.2	本装置にログインする	35
3.3	パスワード情報を設定する	36
3.4	時刻を設定する	37
3.4.1	任意の時刻を設定する	37
3.4.2	ネットワーク上の SNTP サーバを設定する	37
3.5	IP アドレスを設定する	38
3.6	SNMP 機能を設定する	39
3.7	設定を保存する	40
第 4 章	メンテナンス	41
4.1	構成定義情報を退避／復元する	42
4.1.1	HTTP による構成定義情報の退避	42
4.1.2	TFTP による構成定義情報の退避	43
4.1.3	HTTP による構成定義情報の復元	44
4.1.4	TFTP による構成定義情報の復元	45
4.2	システムログ情報を退避する	46
4.2.1	HTTP によるシステムログ情報の退避	46
4.2.2	TFTP によるシステムログ情報の退避	46
4.3	ファームウェアを退避／インストールする	47
4.3.1	HTTP によるファームウェアの退避	47
4.3.2	TFTP によるファームウェアの退避	48
4.3.3	HTTP によるファームウェアのインストール	49
4.3.4	TFTP によるファームウェアのインストール	51
4.4	ご購入時の状態に戻すには	53
索引	54

本書の構成と使いかた

本書では、本装置をお使いになる前に知っておいていただきたいことを説明しています。

本書の取り扱いについて

本書には、本装置を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。

本装置を使用する前に本書を熟読してください。特に本書に記載されている「安全上のご注意」をよく読み、理解された上で本装置を使用してください。また、本書は本装置の使用時、いつでも参照できるように大切に保管してください。

お客様の生命、身体、財産に被害をおよぼすことなく弊社製品を安全に使っていただくために細心の注意を払っています。本装置を使用する際には、本書の説明に従ってください。

本書の読者と前提知識

本書は、ネットワーク管理を行っている方を対象に記述しています。

本書を利用するにあたって、ネットワークおよびインターネットに関する基本的な知識が必要です。

本書の構成

以下に、本書の構成と各章の内容を示します。

章タイトル	内容
第1章 お使いになる前に	この章では、本装置の梱包内容、各部の名称と働きについて説明します。
第2章 機器の設置	この章では、本装置の設置および接続について説明します。
第3章 設定	この章では、本装置の基本的な設定方法について説明します。
第4章 メンテナンス	この章では、本装置をメンテナンスする方法を説明します。

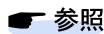
本書で使用するマークについて

本書で使用しているマーク類は、以下のような内容を表しています。

こんな事に気をつけて 本装置をご使用になる際に、注意していただきたいことを説明しています。



操作手順で説明しているもののほかに、補足情報を説明しています。



操作方法など関連事項を説明している箇所を示します。



製造物責任法 (PL) 関連の警告事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。



製造物責任法 (PL) 関連の注意事項を表しています。本装置をお使いの際は必ず守ってください。

本書における商標の表記について



本書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中では®を省略しています。




安全上のご注意


警告表示について







本書では、人身や財産への危害を未然に防ぎ、本装置を安全に使用いただくために守っていただきたい事項を表示しています。以下の表示と記号の意味、内容をよくご理解のうえ、本書をお読みください。










-  **警告** 正しく使用しない場合、死亡や重傷など、人体への重大な障害をもたらすおそれがあることを示します。
-  **注意** 正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。また、本装置や本装置に接続している機器に損害を与えるおそれがあることを示します。

危害や損害の内容を示すために、以下の記号を使用しています。

記号	記号の意味
	△で表示された記号は、警告や注意事項を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。
	○で表示された記号は、してはいけない禁止行為を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。
	●で表示された記号は、必ず従っていただく行為の強制、指示を示しています。記号の中やその脇には、具体的な内容が記載されています。











-  **警告** 本装置を安全にお使いいただくために、必ずお守りください。正しく使用しない場合、死亡や重傷など、人体への重大な障害をもたらすおそれがあることを示します。

警告事項			
 分解禁止	本装置の分解・解体・改造・再生を行わないでください。 感電・火災・故障の原因となります。	 アース線接続	必ずアース接続してください。 アース接続しないで使用すると、感電のおそれがあります。 アース接続は、必ず電源プラグをコンセントに接続する前に行ってください。 アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
 禁止	電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。 電源ケーブルの上に物をのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりして、電源ケーブルを傷めないでください。 電源ケーブルを束ねた状態で使用しないでください。感電や火災のおそれがあります。 その他のケーブル類も同様です。	 禁止	表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。 また、タコ足配線をしないでください。 感電・火災の原因となります。
 ぬれ手禁止	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電のおそれがあります。	 禁止	電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

警告事項	
 接触禁止 近くで雷が発生したときは、本装置、電源ケーブルおよびその他のケーブルに触れないでください。 感電の原因となります。	 プラグを抜く 万一、発熱、発煙、異臭がするなどの異常が発生した場合は、ただちに使用を中止してください。 すぐに電源ケーブルのプラグをコンセントから抜き、煙などの異常が出なくなるのを確認し、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
 異物禁止  プラグを抜く 本装置の通気孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。 また、水などの液体を入れないでください。 万一、異物や液体が入った場合は、まず電源プラグをコンセントから抜いて、弊社の技術員または弊社が認定した技術員に連絡してください。 そのまま使用すると、感電・火災・故障の原因となります。	 禁止 インタフェースコネクタには、適合する回線のコネクタ以外のものを絶対に差し込まないでください。 感電・故障の原因となります。
 感電注意 サービスマン以外は、カバーを開けないでください。 また、保守時には、必ず電源ケーブルを抜いてください。 感電のおそれがあります。	 注意 梱包に使用しているビニール袋は、お子さまが口に入れたり、かぶって遊んだりしないようにしてください。 窒息の原因となります。
 注意 取り外したネジなどは、小さなお子さまが誤って飲み込むことがないように、小さなお子さまの手の届かないところに置いてください。 万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。	 禁止 清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。 火災・故障の原因となります。

⚠️ 注意

正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。
 また、本装置や本装置に接続している機器に損害を与えるおそれがあることを示します。

注意事項	
 禁止 電源が入っている状態で本装置に長時間（1分以上）触れないでください。 低温火傷の原因となることがあります。	 禁止 光源部（レーザー光など）を直接見ないでください。 目を痛めるおそれがあります。
 禁止 本装置を縦置きおよび段積みしないでください。 落下による怪我・破損・故障の原因となります。	 禁止 本装置の上に物を置いたり、本装置の上で作業したりしないでください。 本装置が破損・故障したり、作業者が負傷したりするおそれがあります。
 禁止 本装置をぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に設置しないでください。 また、強い衝撃や振動の加わる場所で使用しないでください。 落下による怪我・破損・故障の原因となります。	 注意 本装置は、屋内に設置してください。 屋外に設置すると故障の原因となります。
 注意 国内でだけ使用してください。 本装置は、国内仕様になっていますので、海外では使用できません。	 禁止 極端な高温または低温環境や温度変化の激しい場所で使用しないでください。 故障の原因となります。本装置の使用温度範囲を守ってください。
 禁止 本装置を薬品の噴霧気中や薬品の触れる場所など腐食性ガス発生環境下では使用しないでください。 破損・故障の原因となります。	 禁止 電子レンジなど、強い磁界を発生する装置のそばで使用しないでください。 故障の原因となります。

注意事項	
 <p>本装置の通気孔の確保およびケーブル処理に必要な空間をとってください。 本装置を並べて使用する場合でも、それぞれに必要なサービスエリアを設けてください。 ケーブルの障害や故障の原因となります。</p>	 <p>本装置を移動するときは、必ず電源ケーブルを抜いてください。 故障の原因となります。</p>
 <p>禁止 本装置が未サポートの拡張モジュールを取り付けしないでください。 故障の原因となります。</p>	 <p>配線工事は、正しく行ってください。 正しい配線工事を行わないと正常な通信が行えないだけでなく、本装置の故障にもつながります。</p>
 <p>禁止 本装置の電源が入っている状態で、拡張モジュールの取り付け／取り外しをしないでください。 故障の原因となります。</p>	 <p>禁止 本装置内部が高温になるため、通気孔をふさがしないでください。 火災のおそれがあります。</p>
 <p>禁止 直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ほこりの多い場所には置かないでください。 感電や火災のおそれがあります。</p>	 <p>電源プラグは、電源コンセントに確実に奥まで差し込んでください。 差し込みが不十分な場合、感電・発煙・火災の原因となります。</p>
 <p>電源ケーブルは、プラグ部分を持ってコンセントから抜いてください。 プラグが傷んで感電や火災のおそれがあります。</p>	 <p>禁止 使用中の本装置を布で覆ったり、包んだりしないでください。 熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p>
 <p>電源プラグの金属部分およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。 そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。</p>	 <p>禁止 ラジオやテレビジョン受信機のそばで使用しないでください。 ラジオやテレビジョン受信機に雑音が入る場合があります。</p>
 <p>電源ケーブルは同梱のものを使用してください。また、同梱の電源ケーブルをほかの製品に使用しないでください。</p>	 <p>注意 装置への結露は破損・故障の原因となりますので結露を防止してください。</p>
 <p>禁止 外気が直接流入する場所に装置を設置すると粉塵等の影響により破損・故障の原因となります。</p>	 <p>禁止 噴霧式加湿器が噴霧する水滴中の不純物が乾燥すると白粉となって、機器内部に付着するため、不純物の含まれない水を使用してください。破損・故障の原因となります。</p>
 <p>禁止 潮風に含まれる塩分は絶縁不良や部材の腐食劣化の原因となるため、製品は海岸から離れた場所に設置を行ってください。 破損・故障の原因となります。</p>	 <p>注意 浸水、雨漏り、給水配管の漏れ等がない場所に設置してください。</p>
 <p>注意 粉末消火剤や泡消火材は、機器や媒体を汚損するリスクがあるため、使用する消火剤は、機器影響の少ない消火剤等の使用を推奨いたします。</p>	 <p>注意 鼠の侵入による信号ケーブルや電源ケーブルのかじりによる誤動作、断線、漏電、絶縁不良を防止するため、侵入するような隙間や穴を塞いでください。</p>

メンテナンスに関するご注意

- ・ 決してご自身では修理を行わないでください。故障の際は、弊社の技術員または弊社が認定した技術員によるメンテナンスを受けてください。
- ・ 本装置をご自身で分解したり改造したりしないでください。本装置の内部には、高電圧の部分および高温の部分があり危険です。

使用上のご注意

- ・ 本製品を安定した状態でご使用になれる期間は5年が目安です。これは使用環境温度が40℃を想定した数値です。
- ・ 本装置として提供される取扱説明書および装置本体は、お客様の責任においてご使用ください。
- ・ 本装置の使用によって発生する損失やデータの損失については、弊社では一切の責任を負いかねます。また、本装置の障害の保証範囲はいかなる場合も、本装置の代金としてお支払いいただいた金額を超えることはありません。あらかじめご了承ください。
- ・ 本製品にて提供されるファームウェアおよび本製品用として弊社より提供される更新用ファームウェアを、本製品に組み込んで使用する以外の方法で使用する、また、改変や分解を行うことは一切許可しておりません。
- ・ 本装置で10GBASE-Tで10Gbps通信をご利用される場合は、ツイストペアケーブルはカテゴリ6A以上のケーブルをご使用ください。

ツイストペアケーブルの除電について

ツイストペアケーブルは、ご使用の環境などによって、静電気が帯電することがあります。静電気が帯電したツイストペアケーブルをそのまま機器に接続すると、機器または機器の接続ポートが誤動作したり、壊れたりすることがあります。

接続する機器に接続する直前に静電気除去ツールなどをご使用いただき、ツイストペアケーブルに帯電している静電気をアース線などに放電して接続してください。

また、静電気を放電したあと、接続しないまま長時間放置すると、放電効果が失われますのでご注意ください。

☛ 参照 [「2.3.1 ツイストペアケーブルを放電する」\(P.25\)](#)

清掃について

本装置を清掃する場合、布に水（または水で薄めた中性洗剤）を含ませ、固く絞ってからふいてください。

ふき取りのときに、本装置のスイッチ類やすきまなどに、水が入らないように十分にご注意ください。

電波障害自主規制について

本装置は、クラス A 情報技術装置です。本装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

高調波電流規格について

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

ハイセイフティについて

本装置は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本装置を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

事業系の使用済み製品の引き取りとリサイクルについて

法人のお客様から排出される弊社製品は「事業系IT製品リサイクルサービス」（有料）にて回収、リサイクルし、資源の有効利用に取り組んでいます。

本製品の廃棄については、以下の富士通ホームページをご覧ください。

URL : <https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/maintenance/lcm/service-phase4/recycle/>

ラック搭載およびテーブルタップへの接続時のご注意



警告

本装置をラックへ搭載する場合は、使用温度環境の管理、物理的安定性の確保、漏えい電流に対する注意が必要です。本装置のラックへの搭載は、これらの知識を有した技術者が行ってください。感電、火災などの原因となります。

- ・ 本装置の動作保証温度、湿度を超えないように、ラック内外の温度と湿度を管理してください。
- ・ 本装置は、側面吸気、側面排気の構造となっております。吸気面および排気面をふさがないように設置してください。
- ・ 搭載するラックの最大積載量を考慮して搭載してください。
- ・ 設置場所の電源供給能力を確認して設置してください。
- ・ 本装置の電源ケーブルをテーブルタップに接続する場合、テーブルタップの接地線を通して大漏えい電流が流れることがあります。電源接続の前に、必ず接地接続を行ってください。電源ケーブルが分電盤に直接接続されない場合、工業用プラグを持ったテーブルタップを使用してください（本装置の漏えい電流は最大3.5mAです）。

グリーン製品について

弊社の厳しい環境評価基準をクリアした地球に優しい、環境への負荷の少ない「グリーン製品」です。



主な特長

- 小型／省資源化
- 節電機能保有
- 再資源化率が高い

このマークは富士通株式会社のグリーン製品の評価基準に適合したグリーン製品に表示しています。

富士通の環境についての取り組みの詳細は、以下の富士通ホームページをご覧ください。

URL : <https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/>

ネットワークの機器管理・監視

本製品のネットワーク機器監視／管理を行う場合は、機器の構成情報把握・インタフェース状態検出・障害管理・統計（性能／障害）管理・Trap/Syslog 管理が行える、Systemwalker Network Assist がご使用いただけます。

なお、Systemwalker Network Assistの詳細につきましては、以下の富士通ホームページをご覧ください。

URL : <https://www.fujitsu.com/jp/products/software/middleware/business-middleware/systemwalker/products/net-assist/>

お取り扱い上の注意事項

本装置を取り扱う際に、以下の点に注意してください。

- 本装置の構成定義情報は、適宜バックアップを行い、運用中のものをお客様にて管理・保管してください。万一、本装置の故障が発生した場合、装置交換後、お客様にて構成定義情報の復元が必要となります。もし復元を弊社保守員に委託される場合は、故障装置に適用されていた構成定義情報をご提供ください。故障装置に適用されていた構成定義情報が存在しない場合は、お客様にて構成定義情報を再設定していただく必要があり、復旧まで長時間化する可能性があります。
- 本装置は、雷や静電気などに対する保護回路を内蔵しています。そのため、雷や静電気などが装置内に入ると、一部機能が使用できなくなることがあります。この場合、装置の電源を再投入することで正常な状態に復旧します。なお、電源を再投入しても一部機能が使用できない、または、電源が入らない場合は、「保護回路で保護しきれない状態となり装置が破壊された」と考えられます。このような場合は、弊社の技術員または弊社が認定した技術員にご確認ください。
- ファームウェアの更新中は、絶対に電源の切断またはリセットを行わないでください。更新中に電源を切断またはリセットした場合は、装置が起動しなくなります。

第1章 お使いになる前に



この章では、本装置の梱包内容、各部の名称と働きについて説明します。

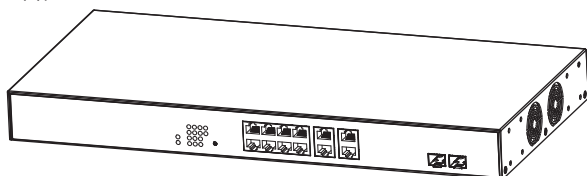
1.1	梱包内容／各部の名称と働き.....	13
1.1.1	梱包内容.....	13
1.1.2	本装置 前面	14
1.1.3	本装置 背面	15
1.1.4	本装置 上面	15
1.1.5	本装置 底面	16

1.1 梱包内容／各部の名称と働き

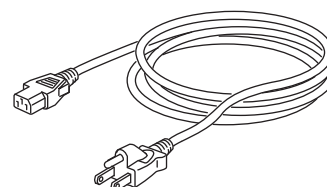
本装置をお使いになる前に、梱包内容を確認してください。

1.1.1 梱包内容

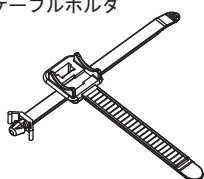
□ 本体



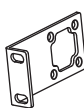
□ 電源ケーブル



□ ケーブルホルダ



□ ラック取り付け金具 (2個)



□ ゴム足 (4個)



□ M3サラネジ (8個)



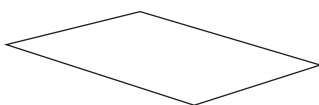
□ SFP+スロット
キャップ (2個)



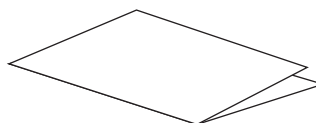
□ 電源警告ラベル



□ 製品保証書



□ 取扱説明書

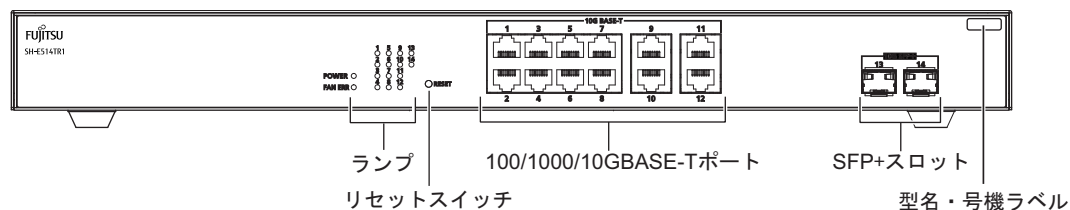


- 本体 本装置のことです。
- 電源ケーブル 本装置とコンセントをつなぐケーブルです。
- ケーブルホルダ 電源ケーブルを本装置に固定するためのホルダです。

☛ 参照 [2.3.4 ケーブルホルダの取り付け／取り外し方法] (P.30)

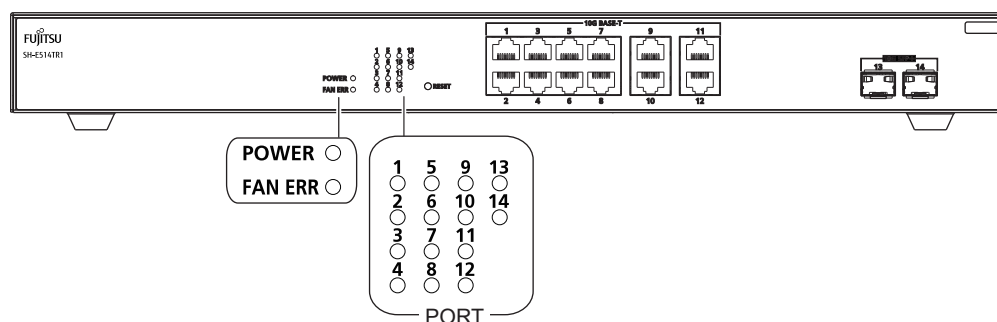
- ラック取り付け金具 (2個) ラック搭載金具をラック裏面の支柱に取り付ける金具です。
- ゴム足 (4個) 本装置を卓上で使用する場合に、本装置に取り付ける足です。
- M3サラネジ (8個) 本装置に、ラック取り付け金具を取り付けるためのネジです。
- SFP+スロットキャップ (2個) SFP+スロット未使用時の、ほこり侵入防止キャップです。ご購入時は、SFP+スロットに取り付けてあります。
- 電源警告ラベル 電源ケーブルについての注意が記載されています。
- 製品保証書 本製品の保証書です。
- 取扱説明書 本書です。

1.1.2 本装置 前面



- ランプ** 装置の状態を表示します。詳細は「[ランプの詳細](#)」(P.14)を参照してください。
 - リセットスイッチ** 3秒以上スイッチを押すと、ご購入時の状態で装置が再起動されます。
 - 100/1000/10GBASE-Tポート** Ethernet (10GBASE-T) のネットワーク機器を接続します。
 カテゴリ6A以上のLANケーブルを使用してください。
 Ethernet (100/1000BASE-T) のネットワーク機器の接続も可能です。
 - SFP+スロット** SFP+ モジュールを使用することにより、Ethernet (10GBASE-SR/10GBASE-LR) のネットワーク機器を接続します。
 または、10GBASE-CR (Twinax) ケーブルを使用することにより、Ethernet (10GBASE-CR) のネットワーク機器を接続できます。
- 参照**
 - カテゴリ6A LANケーブルは以下のホームページまたはカタログを参照してください。
 URL : <http://fenics.fujitsu.com/products/switch.html>
 - 10GBASE-CRケーブルでの動作検証済み接続機器 (富士通ホームページ)
 URL : <http://fenics.fujitsu.com/products/manual/cable2/>
- 型名・号機ラベル** 装置型名と製造号機が記載されています。

ランプの詳細

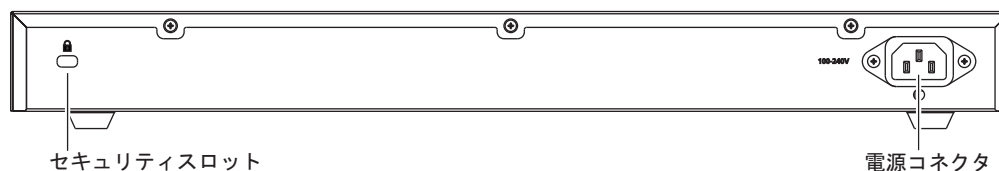


各ランプの表示内容は以下のとおりです。

ランプ名	表示	状態
POWER	緑色で点灯	装置の電源が投入されていることを示します。
	消灯	装置の電源が未投入であることを示します。
FAN ERR	赤色で点灯	内蔵冷却ファンが異常であることを示します。
	消灯	内蔵冷却ファンが正常であることを示します。
PORT	緑で点灯	10Gでリンクが確立していることを示します。
	緑で点滅	10Gで通信中であることを示します。
	橙で点灯	100Mまたは1000Mでリンクが確立していることを示します。

ランプ名	表示	状態
PORT	橙で点滅	100Mまたは1000Mで通信中であることを示します。
	消灯	リンクが未確立であることを示します。

1.1.3 本装置 背面

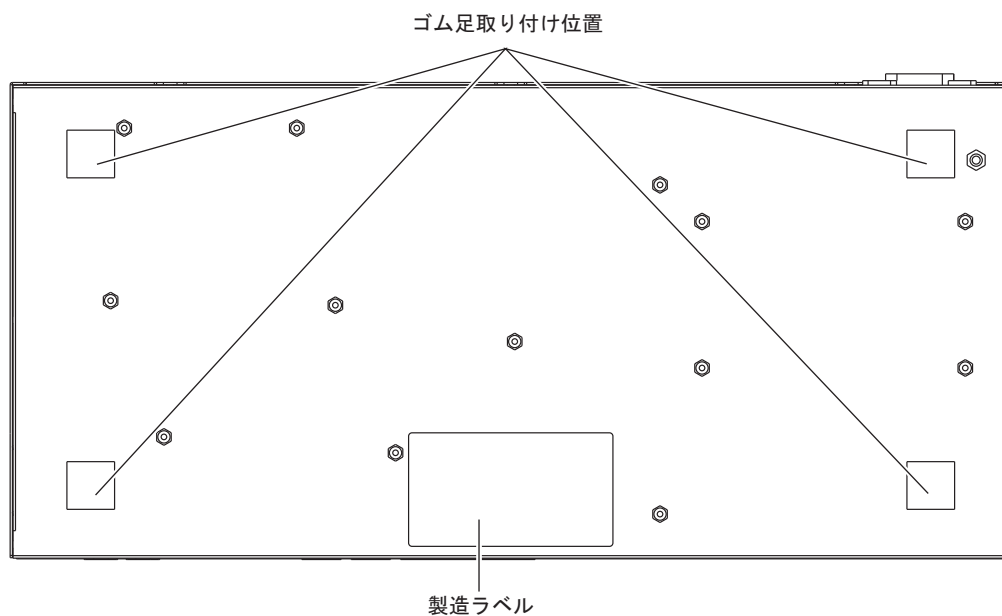


- **セキュリティスロット** 市販の盗難防止用ケーブルを接続します。セキュリティスロットは、Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。盗難防止用ケーブルは、以下のものを購入してください。ほかの類似のケーブルは、取り付けられない場合があります。
 商品名：サンワサプライ ノートパソコンセキュリティキット
 商品番号：SL-38 (1705943)
 (富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：電話番号0120-505-279)
- **電源コネクタ** 同梱の電源ケーブルまたはオプションの電源ケーブルを差し込みます。

1.1.4 本装置 上面



1.1.5 本装置 底面



- ゴム足取り付け位置 本装置を卓上で使用する場合に、ゴム足を取り付ける位置を示します。
- 製造ラベル 型名、シリアル番号（製造号機）、製造年月などが記載されています。

第2章 機器の設置



この章では、本装置の設置および接続について説明します。

2.1	設置環境を確認する.....	18
2.1.1	設置条件を確認する.....	18
2.1.2	設置（保守）スペースを確認する.....	20
2.2	設置する.....	22
2.2.1	本装置を設置する.....	22
2.3	接続する.....	25
2.3.1	ツイストペアケーブルを放電する.....	25
2.3.2	SFP+ モジュール光コネクタを清掃する.....	25
2.3.3	ツイストペアケーブル / SFP+ モジュールを接続する.....	27
2.3.4	ケーブルホルダの取り付け / 取り外し方法.....	30
2.3.5	電源を投入 / 切断する.....	32

2.1 設置環境を確認する

設置する前に、以下のことを確認してください。

- 本書に記載されている本装置およびオプションの梱包内容がすべてそろっている。
- 各インタフェースコネクタに接続するケーブルが、各インタフェースの用途に適合している。

⚠ 警告

インタフェースコネクタには、適合する回線のコネクタ以外のものを絶対に差し込まないでください。
感電・故障の原因となります。

☞ 参照 [1.1.1 梱包内容] (P.13)

2.1.1 設置条件を確認する

本装置では、以下の環境を確保して設置してください。

⚠ 注意

以下の条件を守って設置してください。条件以外の環境で本装置を使用すると、故障の原因となります。

湿温度条件

	温度 (°C)	湿度 (%RH)
動作時	0 ~ 50	10 ~ 90
休止時	0 ~ 50	5 ~ 90

電源条件

項目	条件
電圧	AC100-240V ±10% (※1)
周波数	50Hz / 60Hz +2%、-4%
アース	空調アース、建屋アースと同一でないこと、D種接地（第三種接地）以上

※1 本製品はAC100VまたはAC200Vで動作しますが、同梱の電源ケーブルはAC100V用です。
AC200V利用時は、オプションの「電源ケーブル（200V）型番：SJ-PWCBL2」をご使用ください。

こんな事に気をつけて

- 落雷や停電などで瞬時電圧低下や波形が不安定などのところで、本装置を使用する場合は、交流無停電電源装置の設置を推奨します。瞬時電圧低下や波形乱れなどは装置誤動作・故障の原因となります。
- 電源波形は正弦波で入力してください。それ以外の矩形波などでは、故障などの原因となることがあります。
- 通常はこの電流が影響を与えることはありませんが、本装置の電源投入時に、突入電流による電源供給設備の電圧低下が起きないように設置環境を考慮してください。


設置条件

以下の設置条件でご使用ください。

項目	可否	条件
縦置き	×	—
平置き	○	装置にゴム足を取り付けてご使用ください。
段積み	×	—

チェックリスト

条件が守られているかを以下のチェックリストで確認してください。

チェック内容	チェック結果
本装置の上に物をのせていない	
本装置の通気孔をふさいでいない	
本装置を縦置きおよび段積みにしていない	
本装置の設置場所は直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ほこりの多い場所ではない	
本装置の設置場所は振動の激しい場所や傾いた場所などの不安定な場所ではない	
本書の「安全上のご注意」を読みました  参照 (P.6)	

2.1.2 設置（保守）スペースを確認する

本装置の設置および保守を行う場合は、以下のスペースを確保してください。

本装置の設置（保守）スペースを確保する

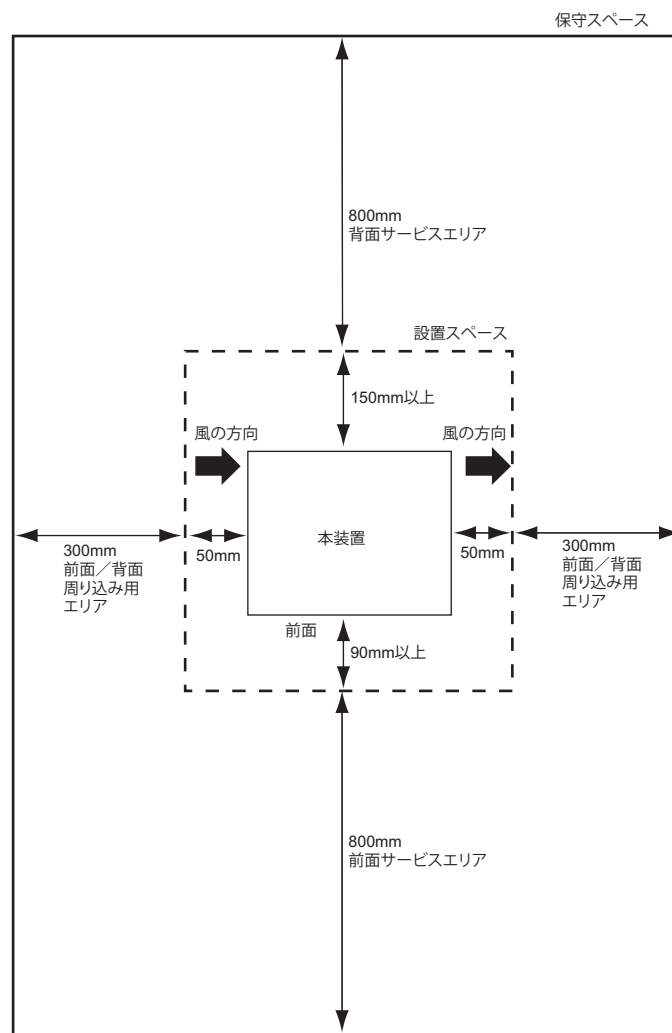
卓上設置の場合

卓上設置を行う場合は、必ず同梱のゴム足を底面の決められた位置に取り付けてください。

本装置の設置および保守を行う場合は、以下のスペースを確保してください。

本装置は、内蔵の冷却ファンにより、左面吸気、右面排気の構造になっています。

本装置を設置する場合は、以下の設置スペースを確保して、風の流れを妨げる場所に物を置かないでください。

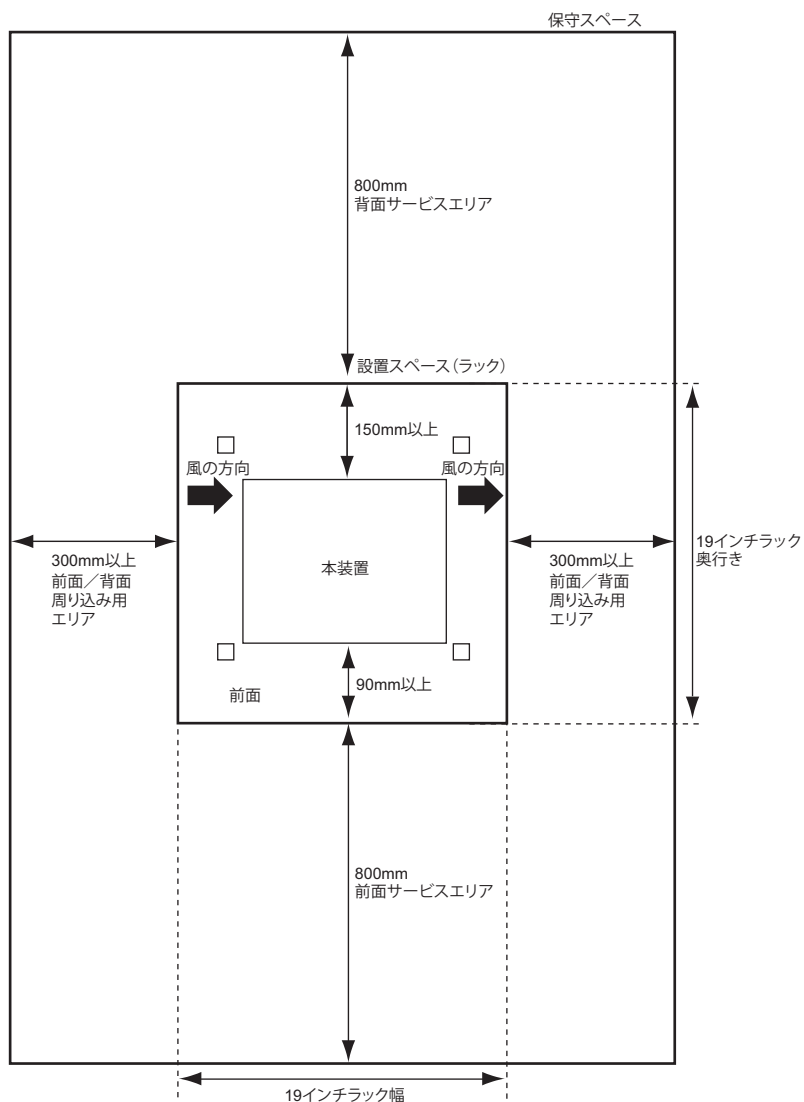


ラック搭載の場合

本装置の設置および保守を行う場合は、以下のスペースを確保してください。

本装置は、内蔵の冷却ファンにより、左面および右面で吸排気の構造になっています。

本装置を設置する場合は、以下の設置スペースを確保して、風の流れを妨げる場所に物を置かないでください。



2.2 設置する

本装置の設置方法について説明します。

2.2.1 本装置を設置する

本装置は、以下の方法で設置することができます。

- 卓上
- ラックに設置 (EIA 規格 19 インチ)

設置する際は、安全に保守するために、前後のスペースを確保してください。

こんな事に気をつけて

設置する際に、電源ケーブルを容易に抜くことができるスペースを確保してください。

☛ 参照 [2.1.2 設置 (保守) スペースを確認する] (P.20)

卓上に設置する

本装置は、平らな卓上に置いて運用することができます。

同梱のゴム足 (4 個) を用意します。

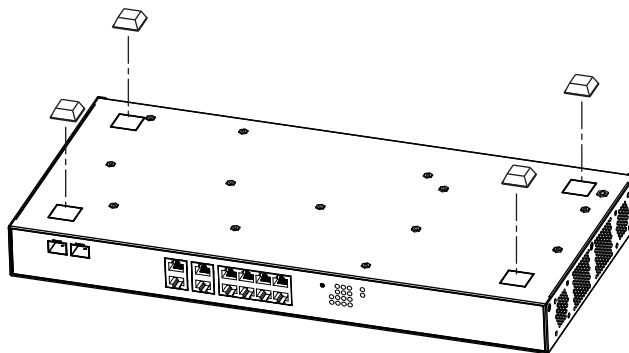
⚠ 注意

- **本装置は、縦置きにしないでください。落下による怪我・破損・故障の原因となります。**
- **本装置は、積み重ねて使用しないでください。**

☛ 参照 [1.1.1 梱包内容] (P.13)

以下に、設置手順を示します。

1. 本装置の上面と底面を逆にして平面上に置きます。
2. ゴム足を本装置底面の四角の印に合わせて貼り付けます。



3. 本装置を卓上に設置します。

19 インチラックに搭載する

本装置は、EIA 規格の 19 インチラックに搭載して運用することができます。

以下の同梱の部品を用意します。

- ラック取り付け金具 (2 個)
- M3 サラネジ (8 個)

☞ 参照 「1.1.1 梱包内容」 (P.13)

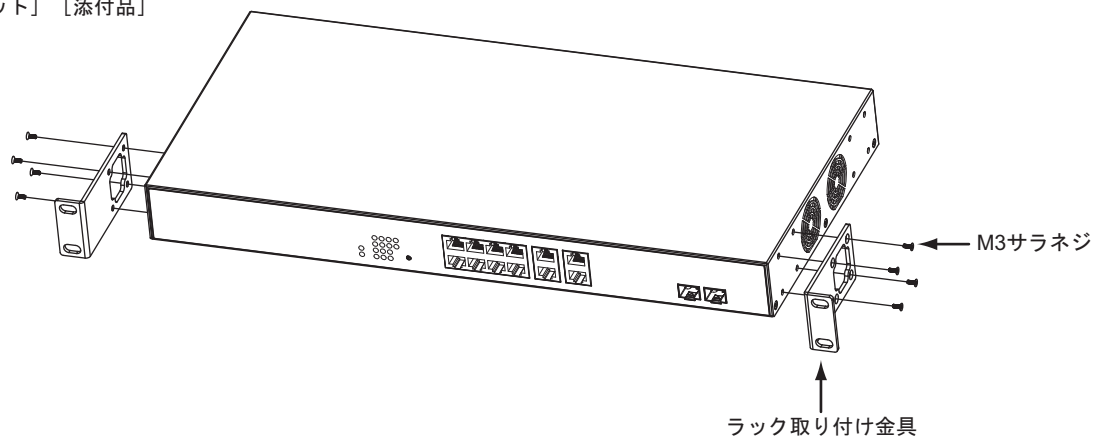
こんな事に気をつけて

- ラック搭載時は、本装置にゴム足を取り付けしないでください。
- 本装置をラックマウント装置に搭載する場合は、ラック仕様に合った、取り付けネジを別途用意してください。
- ラックマウント装置の動作保証温度を超えないように、ラック内外の温度設定や管理を行ってください。
- ラックマウント装置の冷却機構に合った空冷空間スペースを確保してください。
- ラックマウント装置搭載時のラック全体の物理的安定性を確保してください。
- ラックマウント装置に電源供給を行う装置 (テーブルタップ、他装置またはラックのサービスコンセントなど) の電源供給能力 (電流定格) を確認してください。
- 本装置の電源ケーブルをテーブルタップに接続する場合、テーブルタップの接地線を通して大漏えい電流が流れることがあります。電源接続の前に、必ず接地接続を行ってください。電源ケーブルが分電盤に直接接続されない場合、工業用プラグを持ったテーブルタップを使用してください。

以下に、搭載手順を示します。

1. 本装置を平面上に置きます。
2. ラック取り付け金具を同梱の M3 サラネジ (8 個) で、本装置に取り付けます。

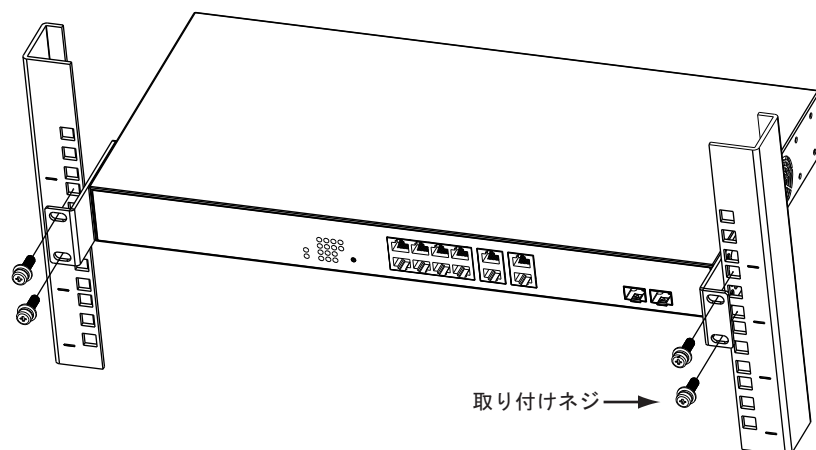
[オフセット] [添付品]



こんな事に気をつけて

ラック取り付け金具を取り付ける場合は、必ず 19 インチラック取り付け金具に同梱の専用ネジを使用してください。それ以外のネジを使用すると破損するおそれがあります。また、ネジを取り付ける際には必ずネジ山に一致するプラスドライバを使用してください。

3. 手順2. でラック取り付け金具を取り付けた本装置をラックに固定します。



こんな事に気をつけて

搭載後、すでに上下に搭載されている装置によって、電源ケーブルが取り付けられない場合があります。そのような場合は、ラックに取り付ける前に電源ケーブルを先に本装置に取り付けてください。

2.3 接続する

本装置にツイストペアケーブルを接続する前に、帯電している静電気を放電することを推奨します。

2.3.1 ツイストペアケーブルを放電する

ツイストペアケーブルを機器に接続する直前に、静電気除去ツールなどを使用してケーブルに帯電している静電気をアース線（電源系アースおよびビルアースなど）に放電します。

こんな事に気をつけて

- 放電作業中は、ツイストペアケーブルの両端を機器（HUB、ルータ、ワークステーション）から抜いておいてください。
- 放電作業には、電子機器のアースは使用しないでください。必ず、電源系アースおよびビルアースなどが接地されているアースを使用してください。
- 電源系アースを使用する場合は、AC電源と短絡しないでください。

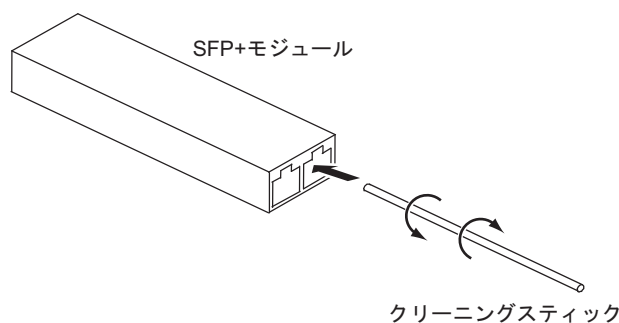
2.3.2 SFP+ モジュール光コネクタを清掃する

SFP+ モジュール光コネクタは、肉眼では見えないよごれや小さなゴミが付着しますと、光信号が途絶えたり、コネクタ間にすきまができ光信号の伝送を妨げることもあります。

そのため、SFP+ モジュール光コネクタの接続前には、必ず、清掃を行ってください。

SFP+ モジュールの清掃方法

1. 清潔なドライエアまたは窒素でほこりやよごれを吹き飛ばします。
エンドフェースを点検し、よごれが残っている場合は、以下の作業を行ってください。
2. クリーニングスティック（LC/MU用直径1.25mm）を使用し、イソプロピルアルコールで軽く湿らせます。よごれをふき取ったあと、新しい乾いたクリーニングスティックで、ゆっくりとていねいにアルコールをふき取ります。
3. SFP+ モジュールの光コネクタ挿し込み部にクリーニングスティックを挿し込み、ゆっくりと回転させます。



4. 新しいクリーニングスティックを挿し込み、ゆっくりと回転して乾燥させます。
5. よごれが取れたかどうか、200倍ファイバースコープで点検します。

光コネクタの清掃方法

1. 光ファイバー部のコネクタ防御キャップを外し、コネクタエンドフェースを点検します。エンドフェースがよごれていたら、リールタイプのファイバークリーナーで清掃します。
2. ファイバークリーナーの親指ホルダを押し込み、ファイバークリーナーのキャップを開けます。
3. キャップがスライドし、新しいクリーニングテープがでてきたら、エンドフェースを軽くあてます。
4. エンドフェースを1/4回転ずつあて、1回転させます。
5. エンドフェースをクリーニングテープにあて、ファイバークリーナーの順方向に動かします。

⚠注意

エンドフェースをクリーニングテープにこすり付けないでください。微細ゴミや傷の原因となります。

6. 親指ホルダをはなし、ファイバークリーナーのキャップを閉めます。
7. エンドフェースのよごれを点検し、必要であれば清掃を繰り返します。

微細ゴミの除去方法

必要に応じて、以下の方法で光ファイバー部の微細ゴミを取り除いてください。

1. 光ファイバー部をエタノールや清掃液などでふきます。
2. 清掃布などで力を抜いてゆっくりとふきます。
3. 新しいクリーニングスティックで同様にふき、乾燥させます。

⚠注意

- 漂白剤などの液体は光結合へダメージを与えるため、使用しないでください。
- SFP+ モジュールへのESDダメージを避けるため、清掃するときは、イオナイザーを使用してください。
- SFP+ モジュールは水洗いできません。また、洗面所や台所などのぬれた場所で使用しないでください。
- SFP+ モジュールは非常に熱くなる場合がありますので、注意して取り扱ってください。

こんな事に気をつけて

- 光コネクタの清掃に、専用の光コネクタクリーナー以外のアルコール、スプレー、綿棒は、使用しないでください。これらを用いて清掃しますと、光コネクタプラグの端面のよごれが完全に取れなかったり、かえってゴミやほこりを付着させたりします。
- 光コネクタ清掃後には、速やかに装置に取り付けてください。放置しますと、ゴミやほこりが付着します。
- よごれ防止のため、SFP+ モジュールを使用するまでコネクタ防御キャップを取り付けておいてください。
- SFP+ モジュールがよごれている場合は、エンドフェースを点検し、必要な場合にのみ清掃します。
- SFP+ モジュールは密閉されていないため、多量の液体を使用すると細かい場所にたまったり、漏れ出したりするおそれがありますので、注意してください。

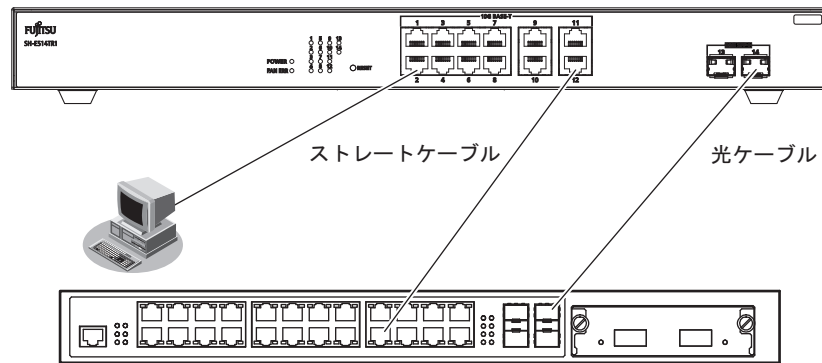
2.3.3 ツイストペアケーブル / SFP+ モジュールを接続する

ツイストペアケーブル、SFP+モジュールの接続方法について説明します。

なお、ルータ／端末を接続する場合は、ストレートケーブルをご使用ください。

ほかのスイッチングハブと接続する場合もストレートケーブルをご使用ください。

その場合 port setting で speed を Auto、MDIX を Auto にしてご使用ください。



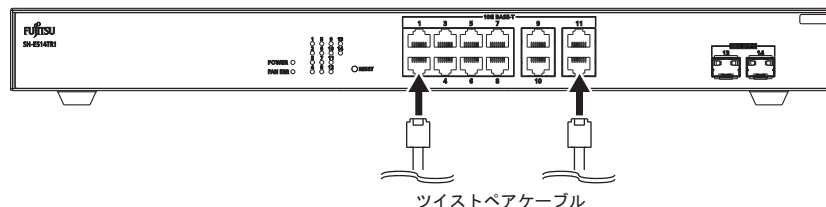
本装置の各ポートは、オートネゴシエーション機能がデフォルトでイネーブルに設定されます。

オートネゴシエーションの機能により、接続された機器がサポートする最大の速度にポートが自動的に適合します。

- 100/1000/10GBASE-T ポート : 最大 10Gbps 全二重モードまで
- SFP+ スロット : 最大 10Gbps 全二重モードまで

ツイストペアケーブルの接続

ツイストペアケーブルを 100/1000/10GBASE-T ポートに『カチン』と音がするまで差し込んでください。



こんな事に気をつけて

- 10GBASE-T の場合、使用可能なツイストペアケーブルは、カテゴリ 6A 以上のケーブルです。
- ツイストペアケーブルに静電気が帯電されていることがありますので、接続前にツイストペアケーブルを放電して接続してください。

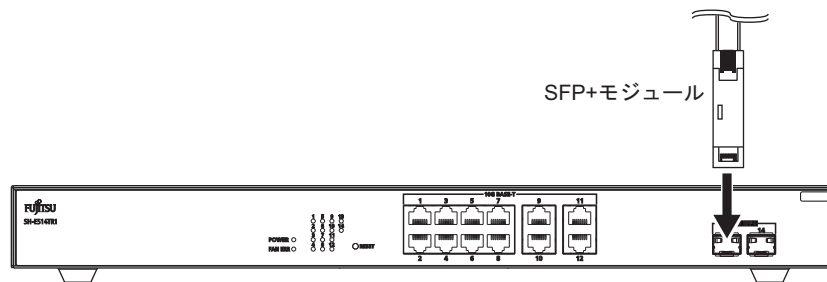


参照 カテゴリ 6A LAN ケーブルは以下のホームページまたはカタログを参照してください。

URL : <http://fenics.fujitsu.com/products/switch.html>

SFP+ モジュールの接続

SFP+ モジュールは、SFP+ ポートに確実に取り付け、本装置とモジュールをロックしてください。



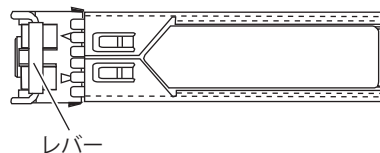
こんな事に気をつけて

- SFP+モジュールの保護キャップはなくさないように、大切に保管してください。
- SFP+モジュール／光ケーブルの端面がよごれている場合がありますので、光コネクタの接続前には、必ず端面の清掃を行ってください。清掃については、[\[2.3.2 SFP+モジュール光コネクタを清掃する\]](#) (P.25) を参照してください。
- SFP+モジュールの接点側を直接手で持たないでください。SFP+モジュールに触れる際には、リストバンドを使用してください。
- SFP+モジュールの光ケーブル接続側がレーザ開口部です。

SFP+ モジュールを取り付ける場合は、レバーがロックされた状態で SFP+ ポートに確実に取り付け、本装置とモジュールをロックしてください。

また、光ケーブル（コネクタ形状：DLC）は、SFP+ モジュールを SFP+ ポートに取り付けたあとに、接続してください。

SFP+ モジュールを取り外す場合は、光ケーブルを抜いたあと、レバーを外し、ロックを解除してから取り外してください。



項目	仕様	
型名	SJSFPASR	SJSFPALR
インタフェース		
規格	IEEE802.3ae (10GBASE-SR)	IEEE802.3ae (10GBASE-LR)
回線速度 (ビット/秒)	10G	
コネクタ	LCコネクタ	
受信許容レベル	-7.5dBm以上	-10.3dBm以上
ケーブル長 (最大) (※)	300m (MMF : 50μm)	10km (SMF : 10μm)
クラス1レーザ製品適用規格	EN60825-1:1994+A1+A2、EN60825-2:2004	

※ ケーブル長 (最大) は、受信許容レベルを満たしていることが条件となります。

こんな事に気をつけて

光ファイバーケーブルの仕様により、ケーブル長は以下となりますので注意してください。

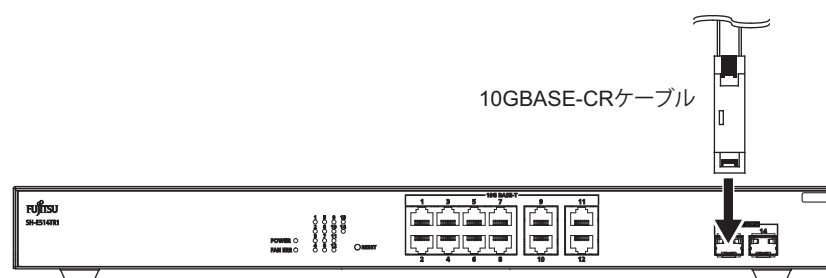
Type	コア／クラッド径	最小伝送帯域	ケーブル長 (最大) (m)
MMF	62.5/125 μ m	160MHz/km	26
		200MHz/km	33
	50/125 μ m	400MHz/km	66
		500MHz/km	82
		2000MHz/km	300

Type	コア／クラッド径	ケーブル長 (最大) (km)
SMF	10 μ m	10

設置する場所などに合わせて最適なケーブルをご使用ください。

10GBASE-CR ケーブルの接続

10GBASE-CRケーブルをSFP+ポートに差し込み、ケーブルをロックしてください。



こんな事に気をつけて

- 取り付け時は斜め方向から取り付けず、まっすぐ一気に押し込んでください。
- コネクタ部のケーブルの曲げは、曲げ半径が10cm以下にならないように注意してください。
- ケーブルを抜く際は、ケーブル側のコネクタのプルタブを引ながらコネクタを引き抜いてください。ケーブル部分を引っ張ると断線することがあります。

- ☛ 参照 10GBASE-CRケーブルでの動作検証済み接続機器（富士通ホームページ）
URL : <http://fenics.fujitsu.com/products/manual/cable2/>

2.3.4 ケーブルホルダの取り付け／取り外し方法

同梱のケーブルホルダを使用することによって、電源ケーブルの抜けを防止できます。

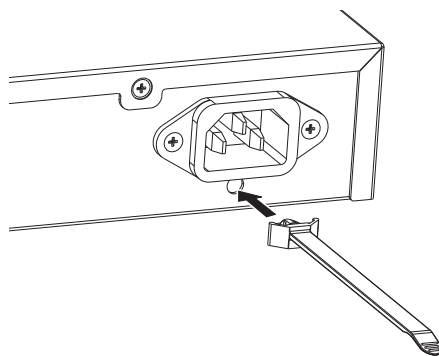
⚠警告

本装置を鍵が掛かるラックに搭載して、電源ケーブルを同梱のケーブルホルダで固定する場合、ラック内部のサービスコンセントを使用してください。

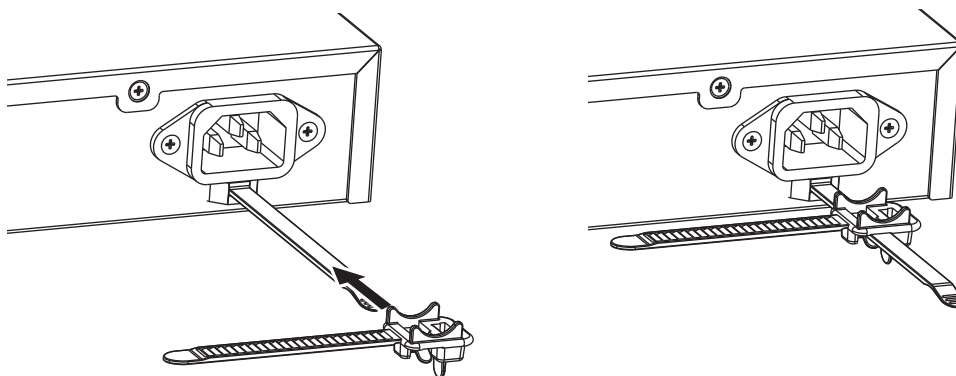
ラック外部のコンセントを使用する場合は、別途ラック内部で電源ケーブルを固定してください。電源ケーブルに外部からの張力が加わると、ケーブルホルダに不測の力が加わり、電源ケーブルの断線・接触不良を起こし、感電・火災の原因となります。

ケーブルホルダの取り付け

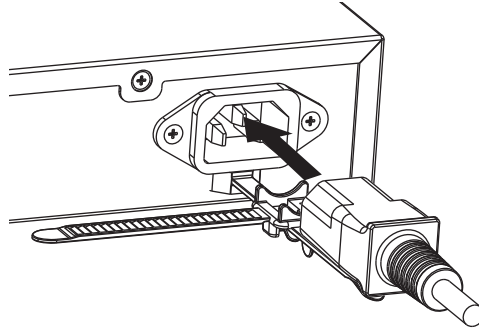
1. ケーブルホルダを本装置に固定します。



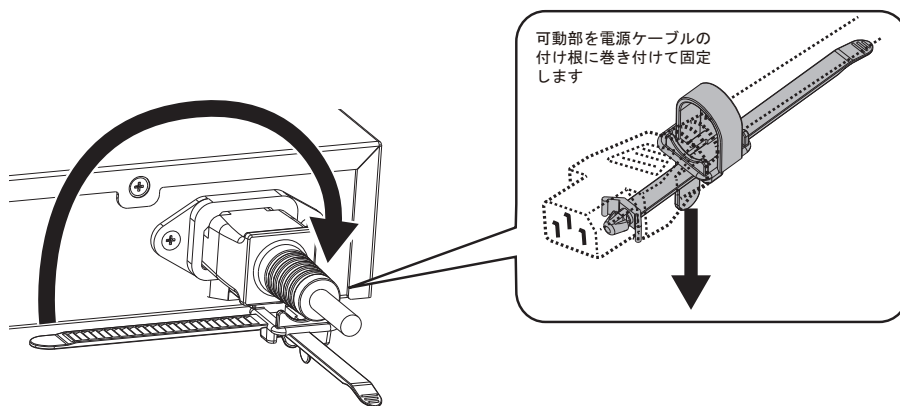
2. ケーブルホルダの可動部を、ケーブルホルダに取り付けます。



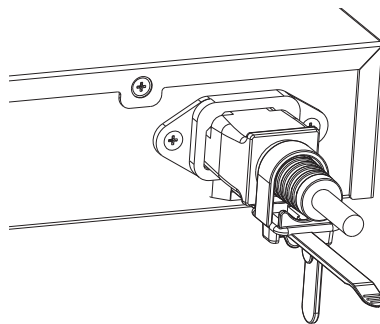
3. 電源ケーブルを差し込みます。



4. ケーブルホルダの可動部を電源ケーブルの付け根に合わせて、電源ケーブルを固定します。



5. 電源ケーブルが固定されます。



ケーブルホルダの取り外し

ケーブルホルダの取り外しは、取り付けと逆の手順で行います。

2.3.5 電源を投入／切断する

⚠注意

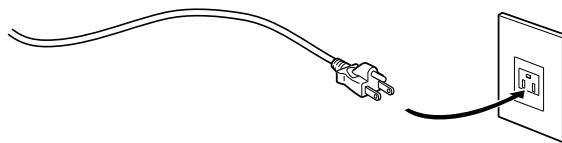
電源ケーブルは同梱のものを使用してください。また、同梱の電源ケーブルをほかの製品に使用しないでください。

こんな事に気をつけて

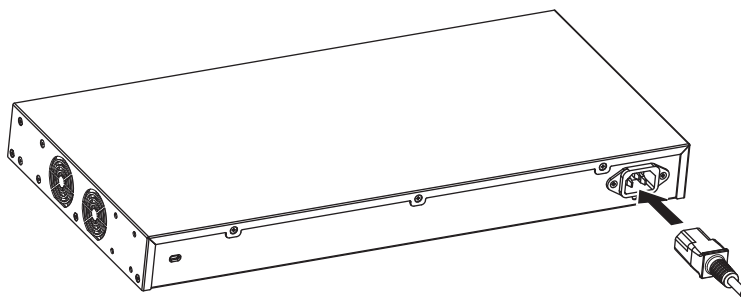
本装置を設置する際に、電源ケーブルを容易に抜くことができるスペースを確保してください。

電源を投入する

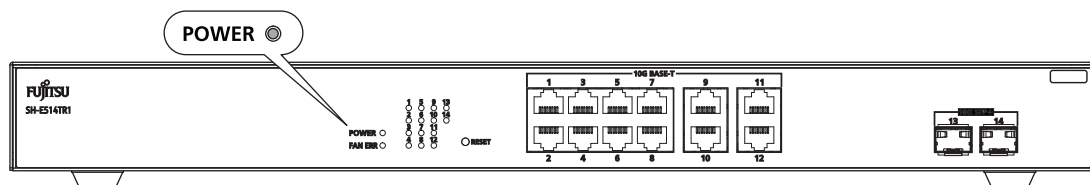
1. 電源ケーブルをコンセントにつなぎます。



2. 本装置背面の電源コネクタに電源ケーブルを差し込みます。
電源が投入されます。



3. 本装置前面のPOWERランプが緑色に点灯します。



電源を切断する

電源の切断は、電源の投入と逆の手順で行います。

第3章 設定



この章では、本装置の基本的な設定方法について説明します。

3.1	WWWブラウザを準備する	34
3.2	本装置にログインする	35
3.3	パスワード情報を設定する	36
3.4	時刻を設定する	37
3.4.1	任意の時刻を設定する	37
3.4.2	ネットワーク上のSNTPサーバを設定する	37
3.5	IPアドレスを設定する	38
3.6	SNMP機能を設定する	39
3.7	設定を保存する	40

3.1 WWWブラウザを準備する

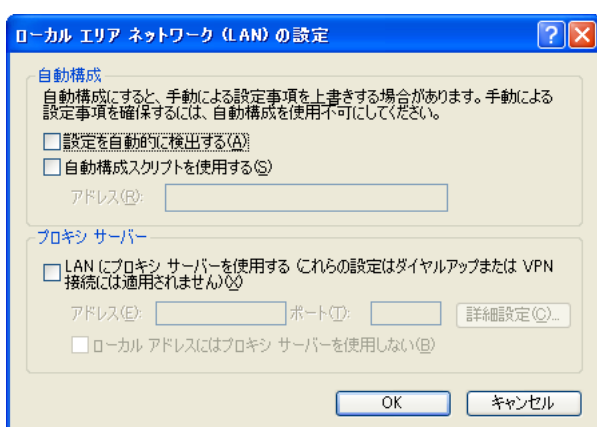
本装置を利用するには、以下のWWWブラウザを使用してください。

- Microsoft Internet Explorer Version 11

WWWブラウザの設定が、「Proxy（プロキシ）サーバ機能」を利用しないようになっていることを確認してください。

以下のように確認します。

1. Microsoft Internet Explorerを起動します。
2. ツールバーまたはメニューバーの「ツール」をクリックし、「インターネットオプション」をクリックします。
3. インターネットオプション画面の「接続」タブで、「LANの設定」ボタンをクリックします。
4. プロキシサーバーの「LANにプロキシサーバーを使用する」が選択されていないことを確認します。



Proxyサーバを使用する場合は、以下を参考にして本装置だけをProxyの対象外にしてください。

1. Microsoft Internet Explorerを起動します。
2. ツールバーまたはメニューバーの「ツール」をクリックし、「インターネットオプション」をクリックします。
3. インターネットオプション画面の「接続」タブで、「LANの設定」ボタンをクリックします。
4. プロキシサーバーの「LANにプロキシサーバーを使用する」が選択されていることを確認し、「詳細設定」ボタンをクリックします。
5. 「HTTP」にプロバイダのProxyサーバを指定します。
6. 例外の「次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない」に本装置のIPアドレス（192.168.1.1）を指定します。

3.2 本装置にログインする

WWWブラウザを使用して、本装置にログインします。

1. 設定用パソコンを本装置の任意のポートに接続します。
2. 設定用パソコンのIPアドレスを本装置と同じネットワークのIPアドレス/サブネットマスクに設定します。
本装置のご購入時のIPアドレスは「192.168.1.1」、サブネットマスクは「255.255.255.0」です。
3. 本装置のURL「http://192.168.1.1/」を指定します。
本装置のログイン画面が表示されます。



4. ユーザ名とパスワードを指定します。
ご購入時の状態では、ユーザ名・パスワードともにadminが設定されています。
5. [Login] ボタンをクリックします。
本装置のトップページが表示されます。

3.3 パスワード情報を設定する

本装置を運用開始する前に、必ずパスワードを設定してください。

また、設定したパスワードは定期的に変更するようにしてください。

1. 本装置のトップページで、画面左側の [Management] > [User Accounts Setting] をクリックします。

User Accounts Setting 画面が表示されます。

User Name	Privilege	Password	
admin	Administrator	*****	Delete

2. User Name に admin を指定し、新しい Password を設定します。
3. [Apply] ボタンをクリックします。

3.4 時刻を設定する

本装置を運用開始する前に、必ず時刻を設定してください。ご購入時の状態では、時刻は設定されていません。時刻を設定する方法は、以下の2つがあります。

- 任意の時刻を設定する方法
- ネットワーク上のSNTPサーバから時刻を取得する方法

3.4.1 任意の時刻を設定する

1. 本装置のトップページで、画面左側の [System] > [Time and SNMP] > [Clock Settings] をクリックします。

Clock Settings 画面が表示されます。

2. 現在の時刻を設定します。
3. [Apply] ボタンをクリックします。

3.4.2 ネットワーク上のSNTPサーバを設定する

1. 本装置のトップページで、画面左側の [System] > [Time and SNMP] > [SNTP Settings] をクリックします。

SNTP Settings 画面が表示されます。

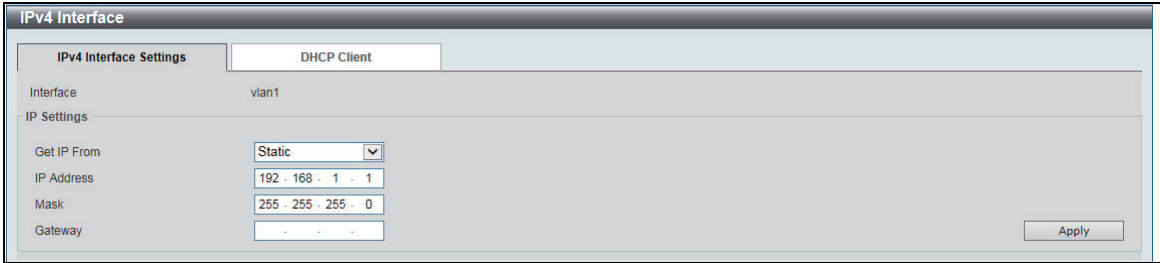
Total Entries: 1				
SNTP server	Stratum	Version	Last Receive	
192.168.1.10	-	-	-	Delete

2. 以下の項目を指定します。
 - SNTP State : Enabled
3. [Apply] ボタンをクリックします。
4. 以下の項目を指定します。
 - IPv4 Address : SNTPサーバIPアドレス
5. [Add] ボタンをクリックします。

3.5 IPアドレスを設定する

本装置のIPアドレスを設定してください。

1. 本装置のトップページで、画面左側の [L3 Features] > [IPv4 Interface] をクリックします。
IPv4 Interface画面が表示されます。



2. 以下の項目を指定します。
 - Get IP Form : Static
 - IP Address : IPアドレス
 - Mask : サブネットマスク
 - Gateway : ゲートウェイIPアドレス
3. [Apply] ボタンをクリックします。
4. 変更後のIPアドレスをWWWブラウザより指定して、本装置に再度ログインします。

3.6 SNMP 機能を設定する

SNMP エージェント機能を使用して本装置を監視する場合に以下を設定してください。

1. 本装置のトップページで、画面左側の [Management] > [SNMP] > [SNMP Global Setting] をクリックします。

SNMP Global Setting 画面が表示されます。

2. 以下の項目を指定します。

- SNMP Global State : Enable
- Trap Global State : Enable
 - SNMP Authentication Trap
 - Port Link Up
 - Port Link Down
 - Coldstart
 - Warmstart

必要な Trap をチェックしてください。

3. [Apply] ボタンをクリックします。
4. [SNMP Host Table Setting] をクリックします。

SNMP Host Table Setting 画面が表示されます。

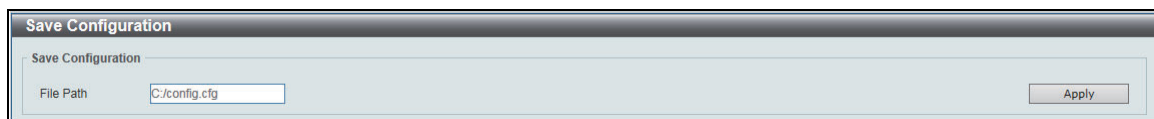
Total Entries: 1				
Host IP Address	SNMP Version	UDP Port	Community String / SNMPv3 User Name	
192.168.1.20	V1	162	public	Delete

5. 以下の項目を指定します。
 - Host IPv4 Address : SNMP マネージャーのIP アドレス
 - User-based Security Model : SNMP バージョン (SNMPv1 または SNMPv2c) を選択してください
 - UDP Port : 162
 - Community String : public
6. [Add] ボタンをクリックします。

3.7 設定を保存する

1. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Save] > [Save Configuration] をクリックします。

Save Configuration 画面が表示されます。



2. [Apply] ボタンをクリックします。

第4章 メンテナンス



この章では、本装置をメンテナンスする方法を説明します。

4.1	構成定義情報を退避／復元する	42
4.1.1	HTTPによる構成定義情報の退避	42
4.1.2	TFTPによる構成定義情報の退避	43
4.1.3	HTTPによる構成定義情報の復元	44
4.1.4	TFTPによる構成定義情報の復元	45
4.2	システムログ情報を退避する	46
4.2.1	HTTPによるシステムログ情報の退避	46
4.2.2	TFTPによるシステムログ情報の退避	46
4.3	ファームウェアを退避／インストールする	47
4.3.1	HTTPによるファームウェアの退避	47
4.3.2	TFTPによるファームウェアの退避	48
4.3.3	HTTPによるファームウェアのインストール	49
4.3.4	TFTPによるファームウェアのインストール	51
4.4	ご購入時の状態に戻すには	53

4.1 構成定義情報を退避／復元する

4.1.1 HTTP による構成定義情報の退避

1. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Configuration Restore & Backup] > [Configuration Backup to HTTP] をクリックします。

Configuration Backup to HTTP 画面が表示されます。

2. 以下の項目を指定します。

- Source File : 退避する構成定義情報を以下より指定してください。
 - Source File
本装置内の構成定義情報のファイル名を指定してください。
 - 運用中構成定義情報
“running-config” をチェックしてください。
 - 起動時構成定義情報
“startup-config” をチェックしてください。

3. [Backup] ボタンをクリックします。



本装置内の構成定義情報については、以下の操作でファイル情報を確認してください。

1. 画面左側の [Management] > [File System] をクリックします。
File System 画面が表示されます。
2. Drive の [c:] をクリックします。
C ドライブ内のファイル情報が表示されます。
Info 欄に “CFG” と表示されているファイルが構成定義情報です。
また “CFG(*)” と表示されているファイルは使用中であることを示します。

4.1.2 TFTP による構成定義情報の退避

1. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Configuration Restore & Backup] > [Configuration Backup to TFTP] をクリックします。

Configuration Backup to TFTP 画面が表示されます。

2. 以下の項目を指定します。

- TFTP Server IP : TFTP サーバの IP アドレス
- Source File : 退避する構成定義情報を以下より指定してください。
 - Source File
本装置内の構成定義情報のファイル名を指定してください。
 - 運用中構成定義情報
“running-config” をチェックしてください。
 - 起動時構成定義情報
“startup-config” をチェックしてください。
- Destination File : 退避先の構成定義情報のファイル名

3. [Backup] ボタンをクリックします。

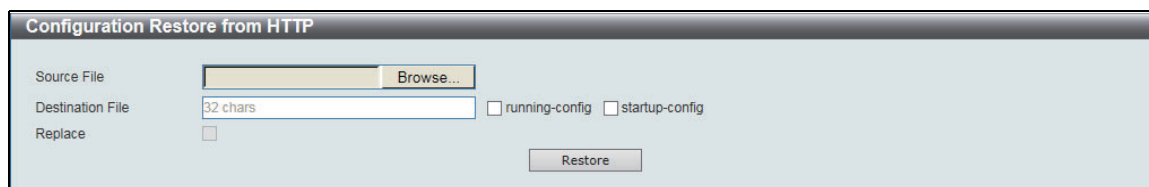


本装置内の構成定義情報については、以下の操作でファイル情報を確認してください。

1. 画面左側の [Management] > [File System] をクリックします。
File System 画面が表示されます。
2. Drive の [c:] をクリックします。
C ドライブ内のファイル情報が表示されます。
Info 欄に “CFG” と表示されているファイルが構成定義情報です。
また “CFG(*)” と表示されているファイルは使用中であることを示します。

4.1.3 HTTP による構成定義情報の復元

1. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Configuration Restore & Backup] > [Configuration Restore from HTTP] をクリックします。
Configuration Restore from HTTP 画面が表示されます。



2. 以下の項目を指定します。
 - Source File : 退避した構成定義情報のファイル名
 - Destination File : 本装置に復元する構成定義情報を以下より指定してください。
 - Destination File
本装置に新たに保存する構成定義情報ファイル名を指定してください。
 - 運用中構成定義情報
“running-config”と“Replace”をチェックしてください。
 - 起動時構成定義情報
“startup-config”をチェックしてください。
3. [Restore] ボタンをクリックします。



本装置内の構成定義情報については、以下の操作でファイル情報を確認してください。

1. 画面左側の [Management] > [File System] をクリックします。
File System 画面が表示されます。
2. Drive の [c:] をクリックします。
C ドライブ内のファイル情報が表示されます。

こんな事に気をつけて

- 構成定義情報は本装置内に2つまで保存可能です。

4.1.4 TFTPによる構成定義情報の復元

1. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Configuration Restore & Backup] > [Configuration Restore from TFTP] をクリックします。

Configuration Restore from TFTP 画面が表示されます。

2. 以下の項目を指定します。

- TFTP Server IP : TFTP サーバの IP アドレス
- Source File : 退避した構成定義情報のファイル名
- Destination File : 本装置に復元する構成定義情報を以下より指定してください。
 - Destination File
本装置に新規に保存する構成定義情報ファイル名を指定してください。
 - 運用中構成定義情報
“running-config” と “Replace” をチェックしてください。
 - 起動時構成定義情報
“startup-config” をチェックしてください。

3. [Restore] ボタンをクリックします。



本装置内の構成定義情報については、以下の操作でファイル情報を確認してください。

1. 画面左側の [Management] > [File System] をクリックします。
File System 画面が表示されます。
2. Drive の [c:] をクリックします。
C ドライブ内のファイル情報が表示されます。

こんな事に気をつけて

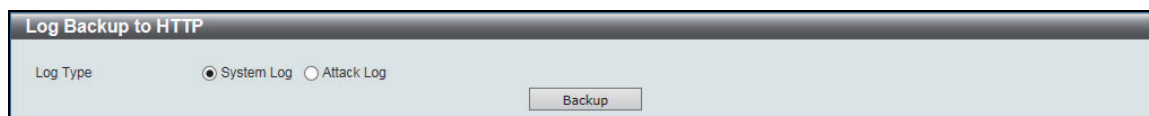
- 構成定義情報は本装置内に2つまで保存可能です。

4.2 システムログ情報を退避する

4.2.1 HTTP によるシステムログ情報の退避

1. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Log Backup] > [Log Backup to HTTP] をクリックします。

Log Backup to HTTP 画面が表示されます。

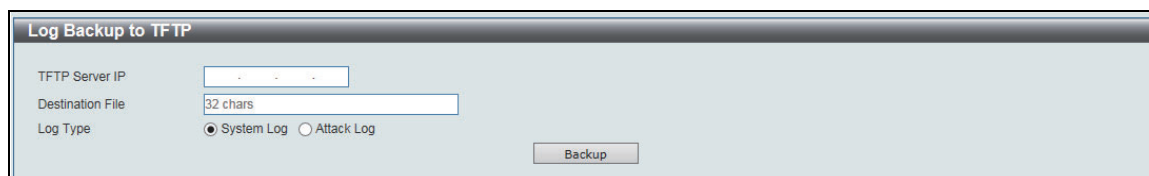


2. Log Type に System Log を指定し、[Backup] ボタンをクリックします。

4.2.2 TFTP によるシステムログ情報の退避

1. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Log Backup] > [Log Backup to TFTP] をクリックします。

Log Backup to TFTP 画面が表示されます。



2. 以下の項目を指定します。

- TFTP Server IP : TFTP サーバの IP アドレス
- Destination File : 退避先ファイル名
- Log Type : System Log

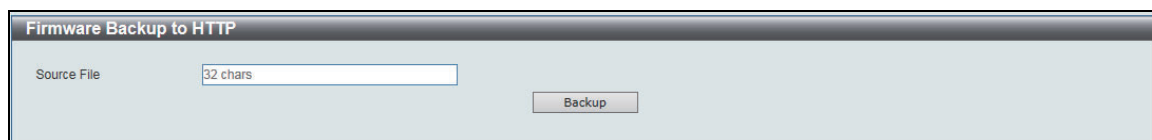
3. [Backup] ボタンをクリックします。

4.3 ファームウェアを退避／インストールする

4.3.1 HTTPによるファームウェアの退避

1. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Firmware Upgrade & Backup] > [Firmware Backup to HTTP] をクリックします。

Firmware Backup to HTTP 画面が表示されます。



2. Source File に退避するファームウェアのファイル名を指定し、[Backup] ボタンをクリックします。



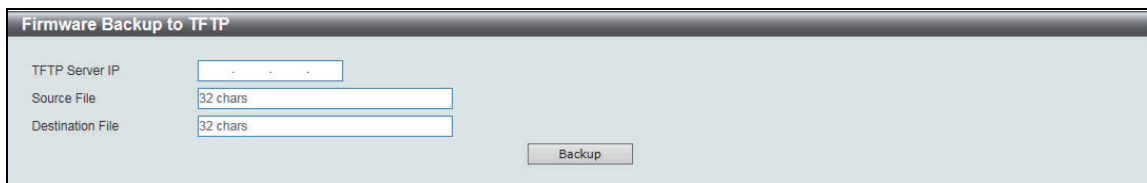
本装置内のファームウェアについては、以下の操作でファイル情報を確認してください。

1. 画面左側の [Management] > [File System] をクリックします。
File System 画面が表示されます。
2. Drive の [c:] をクリックします。
C ドライブ内のファイル情報が表示されます。
Info 欄に "RUN" と表示されているファイルがファームウェアです。
また "RUN(*)" と表示されているファイルは使用中であることを示します。

4.3.2 TFTPによるファームウェアの退避

1. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Firmware Upgrade & Backup] > [Firmware Backup to TFTP] をクリックします。

Firmware Backup to TFTP 画面が表示されます。



2. 以下の項目を指定します。

- TFTP Server IP : TFTP サーバの IP アドレス
- Source File : 退避するファームウェアのファイル名
- Destination File : 退避先のファイル名

3. [Backup] ボタンをクリックします。

4.3.3 HTTPによるファームウェアのインストール


1. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Firmware Upgrade & Backup] > [Firmware Upgrade from HTTP] をクリックします。

Firmware Upgrade from HTTP 画面が表示されます。

2. 以下の項目を指定します。

- Source File : インストールするファームウェアのファイル名
- Destination File : 本装置に保存するファームウェアのファイル名

3. [Upgrade] ボタンをクリックします。

 ファイルの転送が開始されるまでに数分かかる場合があります。

4. 本装置のトップページで、画面左側の [Management] > [File System] をクリックします。

File System 画面が表示されます。

5. Drive の [c:] をクリックします。

Cドライブ内のファイル情報が表示されます。

Index	Info	Attr	Size (byte)	Update Time	Name	
1	RUN	-rw	8701448	Jan 13 2016 09:19:21	new_runtime.had	Boot Up Rename Delete
2	CFG(*)	-rw	5168	Jan 12 2016 19:08:49	config.cfg	Boot Up Rename Delete
3	RUN(*)	-rw	8701448	Jan 09 2016 11:18:30	runtime.had	Boot Up Rename Delete
4		d-	0	Jan 13 2016 00:12:32	system	Rename Delete

100139008 bytes total (82692096 bytes free)
(*) -with boot up info

6. 保存したファームウェアを確認し、[Boot Up] ボタンをクリックします。

次回起動するファームウェアが指定されます。

7. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Reboot System] をクリックします。

Reboot System 画面が表示されます。

8. [Reboot] ボタンをクリックし装置を再起動します。**こんな事に気をつけて**

- ファームウェアは本装置内に2つまで保存可能です。ファームウェアが2つ存在する場合は、使用していないファームウェアを削除した上で、本手順に沿ってインストールを実施してください。
-

4.3.4 TFTPによるファームウェアのインストール

1. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Firmware Upgrade & Backup] > [Firmware Upgrade from TFTP] をクリックします。
Firmware Upgrade from TFTP 画面が表示されます。

2. 以下の項目を指定します。
 - TFTP Server IP : TFTP サーバの IP アドレス
 - Source File : インストールするファームウェアのファイル名
 - Destination File : 本装置に保存するファームウェアのファイル名
3. [Upgrade] ボタンをクリックします。
4. 本装置のトップページで、画面左側の [Management] > [File System] をクリックします。
File System 画面が表示されます。
5. Drive の [c:] をクリックします。
C ドライブ内のファイル情報が表示されます。

Index	Info	Attr	Size (byte)	Update Time	Name	
1	RUN	-rw	8701448	Jan 13 2016 09:19:21	new_runtime.had	Boot Up Rename Delete
2	CFG(*)	-rw	5168	Jan 12 2016 19:08:49	config.cfg	Boot Up Rename Delete
3	RUN(*)	-rw	8701448	Jan 09 2016 11:18:30	runtime.had	Boot Up Rename Delete
4		d--	0	Jan 13 2016 00:12:32	system	Rename Delete

100139008 bytes total (82692096 bytes free)
(*) -with boot up info

6. 保存したファームウェアを確認し、[Boot Up] ボタンをクリックします。
次回起動するファームウェアが指定されます。
7. 本装置のトップページで、画面左上にある Tool Bar の [Tools] > [Reboot System] をクリックします。
Reboot System 画面が表示されます。

8. [Reboot] ボタンをクリックします。

本装置が再起動されます。

こんな事に気をつけて

- ファームウェアは本装置内に2つまで保存可能です。ファームウェアが2つ存在する場合は、使用していないファームウェアを削除した上で、本手順に沿ってインストールを実施してください。
-

4.4 ご購入時の状態に戻すには

本装置を誤って設定した場合やトラブルが発生した場合は、構成定義情報をご購入時の状態に戻すことができます。本装置を移設する場合は、ご購入時の状態に戻してから設定してください。

こんな事に気をつけて

ご購入時の状態に戻すと、起動時構成定義情報の内容がすべて失われます。構成定義情報は最新状態のものを管理・保管してください。

1. 本装置のトップページで、画面左側の [Management] > [File System] をクリックします。
File System 画面が表示されます。
2. Drive の [c:] をクリックします。
C ドライブ内のファイル情報が表示されます。
3. 使用中でない構成定義情報が存在する場合、[Delete] ボタンをクリックして削除します。
Info 欄に“CFG”と表示されているファイルが構成定義情報になります。
また“CFG(*)”と表示されているファイルは使用中であることを示します。
4. 画面左側の [System] > [System Log] をクリックします。
System Log 画面が表示されます。
5. [Clear Log] ボタンをクリックして削除します。
6. 先の細いもので本装置前面のリセットスイッチを3秒以上押します。
本装置がご購入時の状態で再起動されます。

索引

記号

100/1000/10GBASE-T ポート 14

M

Microsoft Internet Explorer 34

P

Proxy サーバ 34

S

SFP+ スロット 14

SFP+ モジュールを接続する 27

SNTP サーバ 37

W

WWW ブラウザ 34

け

ケーブルホルダの取り付け方法 30

こ

梱包内容 13

し

湿温度条件 18

せ

静電気除去ツール 25

セキュリティスロット 15

接続する 25

設置環境を確認する 18

設置条件 19

設置（保守）スペースを確認する 20

た

卓上に設置する 22

ち

チェックリスト 19

つ

ツイストペアケーブルを接続する 27

ツイストペアケーブルを放電する 25

て

電源コネクタ 15

電源条件 18

電源の切断 32

電源の投入 32

ほ

本装置 前面 14

本装置 背面 15

ら

ラック搭載 23

ランプ 14

ろ

ログイン 35

Fujitsu Network SH-E

SH-E514TR1 取扱説明書

TA90002-5746

発行日 2023年5月

発行責任 富士通株式会社

- 本書の一部または全ての無断転載を禁じます。
- 本書は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権、その他の権利については、当社はその責を負いません。
- 落丁、乱丁本はお取り替え致します。